

令和4年度 施設関係者評価

評価基準 (A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない)

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	施設関係者評価	施設関係者評価者から	改善策(来年度に向けて)
1 教育・保育目標	(1)心身ともに健康で元気に遊ぶ子ども	やりたいことに向かって心と体を十分に動かしているか	○園児は年間を通して、季節に応じた自然に触れている。園庭には様々な樹木や草花があり、これらに虫等がやってくる。 ○幼児は、委託した講師の指導を受けて、体育・英語・絵画等を楽しんでいる。 ○保育者が見守る中、屋内外それぞれの環境の中で様々な体験を積み、自立的・意欲的に活動をしている。	A	A	○園庭で自然との触れ合いや、元気に遊ぶ姿が見られる。また、雨天でも遊戯室で元気に体を動かしている。 ○保育者が、園児を全体的にきちんと見ており、事故のないよう注意がなされている。	○心身ともに健康で元気に遊ぶことができる環境を作り、子どもが安心して主体的に活動できるように日々、改善していく。 ○保育と環境構成の重要性を認識し、どちらかに偏ることなく、より良くしていきたい。
	(2)心豊かで思いやりのある子ども	様々な人と関わりを持ち、自分の思いや要求を言葉や態度で安心して表現しているか	○毎月1回の異年齢児交流により、様々な人との関わりを持つことができた。自分の思いや考えを言葉や態度に表し行動している。 ○保育者は、園児との信頼関係を築くため、愛情をもって欲求や気持ちを受け止めている。 ○コロナ禍であるが、工夫して地域・お年寄りとの直接的な関わりが増えてきた。	A	A	○異年齢児活動は、コロナの状況を見て行って頂きたい。 ○コロナの状況を見て、地域やお年寄りとの交流が増えることを期待している。 ○発表会の出し物や作品展で、1つの事をやり遂げる達成感を得ていると感じた。今年は、数年前に発表会も参観させて頂いた。園児にとっても地域にとってもこのような場があることは、大変意義があることだと感じる。	
	(3)自分で考え行動する子ども	○身近な環境に主体的に関わり、活動を楽しんでいるか ○あきらめずにやり遂げようとしているか ○自信をもって行動しているか	○保育の環境設定に日々工夫を凝らし、身近な環境に主体的にかかわることができるようにしている。 ○1つの事をやり遂げる達成感を味わうことが出来るように保育者が援助し、発表会や作品展等を通して自信を持つ機会を多くしている。	A	A		
2 安全管理・指導	事故防止・防災	○定期的に安全点検や避難訓練等の危機管理意識を持ち、全職員が安全対策をとれるよう努めているか ○出欠管理、人数確認の徹底がなされているか	○毎日の遊具点検、毎月の避難訓練、園内研修等により防火・防災研修、交通安全指導等を行っている。また、園児には、紙芝居や絵本、素話を媒介として、年齢に応じた防災教育を行っている。 ○アレレギーの誤飲・誤食を避ける為、保育者と給食職員で連携をとっている。 ○ダブルチェック体制での確実な出欠確認、人数確認を行い、事故のないようにしている。 ○不適切な保育がないよう研修を行い、管理職の保育室への巡回を行っている。また、職員の事務作業の負担軽減のため作成書類の見直し、休暇取得の促進等の働き方改革を行っている。	A	A	○訓練や点検を大事にして、継続して行って頂きたい。 ○アレレギー対応は、職員間の連携が取れておりきちんと対応している。 ○安全管理の重要性が分かる1年だった。過去の事業やヒヤリハットを活用して、事故防止して頂きたい。 ○不適切な保育は、職場環境や職員のゆとり等が大きく影響している。園内の状況を管理職が把握して、不適切な保育に繋がることのないよう対応して頂きたい。	○事故防止の重要性を再認識する。その上で、やるべきことは必ずやることを徹底したい。 ○園内でのヒヤリハットの共有も継続していきたい。 ○新しい保育システムを導入することで、出欠管理や人数確認に漏れがないようにする。
3 保健管理・指導	健康管理	○健康管理指導を行っているか ○園児への健康教育を行っているか	○作成した園における新しい生活様式を基に、感染症対策を徹底している。しかし、コロナは対策を徹底しても流行してしまう。 ○保護者にも感染症対策の理解を頂いている。引き続き、理解を得ていきたい。 ○看護師が、園内で流行している病気を把握し、その対策指導や保護者に対する情報提供を行っている。 ○園医による健康診断、看護師による与薬、視診検診検温を行っている。	B	A	コロナにおける健康管理は重要である。今までと同様に適切な対応をとっている。保護者や市とよく連携をとって対応して頂きたい。	○今年度と同様に、感染症対策を徹底していく。 ○看護師の専門性を生かし、保健管理・指導を充実させる。
4 特別保育	子育て支援センター	保護者が子育ての喜びを感じられるように支援できているか	○地域子育て支援拠点事業は、感染症対策を徹底し行った。母子の孤立が問題となる中、拠点事業の重要性はさらに増していくので、引き続き感染症対策を行いながら子育て支援していく。 ○月に数回イベントを行い、子供の成長を実感し、他の保護者と共感できる場を設けている。	B	A	○子育て支援センターは、不特定多数の人が出入りする中で、感染症対策を徹底することが必要。今後も、最新の情報に基づき感染症対策を行って頂きたい。 ○支援センターを利用する方のニーズをよく考えて、きめ細かなサポートをお願いしたい。	○支援センターの重要性や社会的な役割を職員が理解し、子育て支援を継続していきたい。
5 組織運営	組織体制の充実	チーム保育を行い、情報を互いに共有し合い、子ども理解や保育の進め方について周知、連携しているか	○月1回の職員会議の他、毎日の息礼や園内研修で情報共有や保育の統一を図った。また、各種研修結果を職員会議で発表することで、学んだことを共有している。	A	A	情報共有は重要である。コロナ禍における情報共有の難しさはあるが、確実な共有を行って頂きたい。	来年度もコロナ対策を行いながら、情報共有の場を設けていく。
6 研修	研修体制の充実	内外の研修後、自分の保育に活かしているか	○外部の研修は、コロナが流行しても中止にならず、リモートで研修を受けることができる機会が増えた。これにより、研修の機会を確実に確保できた。 ○研修報告をすることで、受講した保育者が研修を振り返る機会となっている。	B	B	研修は受講して終わりではなく、共有や実践があって、初めて意味がある。現状でよしとせず、常に改善の方法を探って頂きたい。	研修は、来年度も積極的に受講していきたい。内外の研修の充実を言いたい。
7 教育・保育環境整備	教育・保育環境の充実	子どもの興味関心に寄り添いながら、自ら「やりたい」と主体的に活動できる環境を作っているか	○子どもの興味関心を把握すること、各園児の興味に沿った環境を作ることは難しいと感じた。 ○本の種類や数を多く配置し、興味のある本をすぐ手に取れる環境づくりをした。また、遊具や玩具の手入れや整備を行った。	A	A	○絵本が数多く配置されている。より手取り取りやすい環境が整備されると感じた。 ○職員の工夫等により、よりよい環境の整備をして頂きたい。	今後とも、試行錯誤しながら環境を作っていきたい。
8 家庭との連携・協力	家庭教育への支援機能の充実	遊びや生活の様子の情報発信を行い、子どもの成長の喜びを共有できる環境作りが図れているか	○園児の普段の生活を動画配信することで、子どもの成長の喜びをより分かりやすく、共有することができている。 ○動画やHPの更新が少なくなりました。 ○保護者参加型の行事が少しずつ増えてきている。 ○希望による保護者への個人面談は、引き続き丁寧に行った。	B	B	○動画配信サービスやHPの更新により、情報発信を積極的に行って頂きたい。 ○コロナ禍において、新たな取組を導入した。コロナが収束しても継続して行って頂きたい。	個人面談の充実、情報発信を継続していきたい。
9 近隣の学校との連携	近隣の学校との連携の推進	近隣の学校との交流の場を作り、親しみを持って交流できる場や機会を持っているか	○8月の異年齢児交流で、近隣の小学生と交流の場を持つことができた。 ○近隣小学校の教諭が校長以下3人、公開保育参観会へ参加して頂いた。 ○近隣小学校の1年生が作成した「学校の紹介」というポスターを頂いた。学校の生活や授業の様子が分かり、小学校のイメージや見直しを持つことができた。	B	B	○小学校との連携は重要である。お互い忙しい中、公開保育でその機会を得ることができている。小学校からは校長先生が参加して頂いたことから、小学校も連携の重要性を認識していると感じた。 ○本来は、直接会って1年生への見直しを持つことがいいのだが、小学校が工夫して現状でもできる方法で行って頂いている。	○引き続き、近隣小学校との連携を推進していきたい。 ○小学校が本園に対し、期待することを職員が共有して、小学校との接続がスムーズにいくようにする。
10 地域との連携	信頼される園づくりの推進	地域の方との触れ合いの場を作り、親しみを持って交流できる場や機会を作っているか	○段々、地域の方やお年寄り等と交流の機会は増えてきている。 ○地域のボランティアグループには、散歩、ミカン狩り、竹の玉狩り等に協力交流することができた。	A	A	○地域の方を来賓として行事に呼ぶことができ、地域との交流が以前より進むことを期待したい。 ○地域のボランティアグループとの交流は、貴重な機会として捉え大事にして頂きたい。	○これからも、地域ボランティアグループと可能な限りの交流をさせていきたい。 ○地域の連携の重要性を理解し、積極的に推進していく。